

# 調査月報 2017/12

## 目 次

<b>A.台湾経済</b>	1. 景 気 01	2. 物 價 01	3. 失 業 率 01	
	4. 通 関 貿 易 02	5. 鉱 工 業 生 產 02	6. 小 売 業 売 上 高 02	
<b>B.トピックス</b>	2017 年 Q3 の経済成長率+3.10%、輸出が堅調 03			
<b>C.経済統計</b>	台灣主要經濟指標 04	物 價 指 數 06	雇 用 概 況 06	貿 易 統 計 07
	鉱 工 業 生 產 指 数 10	商業売上高伸び率 10	為 替 相 場 11	対台・対外投資統計 13

みずほ銀行  
台北支店/台中支店/高雄支店

**1.景気 2017年10月****a.景気総合判断点数**

景気総合判断点数は前月から5点下落し23点となった。景気対策信号は安定を示す「緑ランプ」で推移した。当局は、世界の景気回復に伴い輸出は引き続き安定を維持すると指摘。内需に関しても投資環境の改善、就業状況の好転、百貨店創業祭商戦等で個人消費も伸びるとみており、経済の先行きは楽観できるとの見方を維持。

**b.景気動向指数**

## ①景気一致指数(当面の景気動向を示す指標)

電力使用量、商業売上高、機械・電機設備輸入額、鉱工業生産指数等の増加で前月比で上昇した。

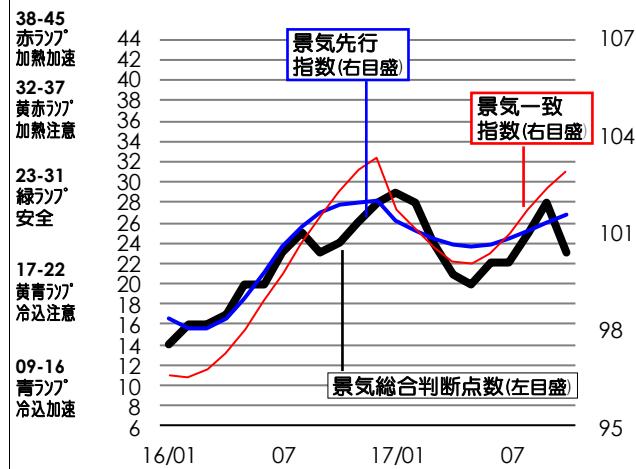
## ②景気先行指数(数カ月先の景気動向を示す指標)

建物延床面積、輸出受注指数、株価指数等の増加で前月比上昇した。

\*SEMI=国際半導体製造装置材料協会

\*M1B=現金通貨+普通預金+個人向け普通貯蓄預金+当座預金

図 A1.景気総合判断点数と景気動向指数の推移 出所:国発会

**2.物価 2017年10月****a.卸売物価**

金属、化学材料、石化関連等の値上げを受けて、前年同月比でプラスで推移した。

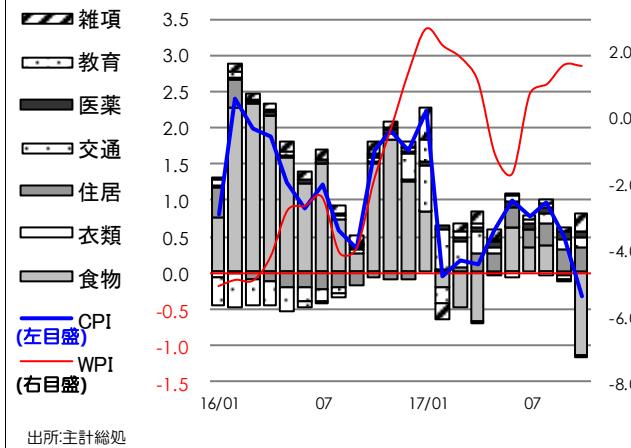
**b.消費者物価**

乳製品、水産品、肉類、煙草等が値上がりしたが、野菜や果物の比較対象となる前年同月の数値が天候不順で高かったことや、卵の価格下落等を受け、前年同月比でマイナスに転じた。

主要分類別では、1項目が下落した。

①食物類が野菜や果物等の値下がりで減少した。

図 A2.物価指数上昇率と構成項目の寄与度 単位%、前年比ベース

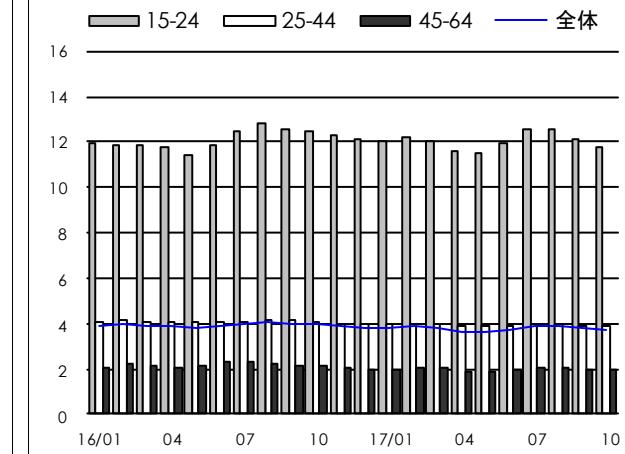
**3.失業率 2017年10月****a.失業率:3.75%**

前月より0.02ポイント下落した。失業者数は44万3千人で前月より2千人減少した。うち、初めての求職活動で仕事が見つからなかった人は3千人、業務縮小または旧廃業で離職した人は2千人減少した。一方、仕事内容への不満から離職した人は2千人、季節性または臨時性業務の終了等による失業者業務縮小による失業者は1千人増加した。

**b.就業**

就業者数は、前年同月比+0.81%の1,138万2千人。業種別では、製造業は前年同月+0.62%の305万人、第三次産業は同+1.04%の675万人となっている。産業別就業者数の構成比を見ると、製造業 26.83%、第三次産業 59.34%、その他(一次産業+製造業を除く二次産業)13.83%となっている。

図 A3.失業率の推移 年齢層別 単位:% 出所:主計総処



**4.通関貿易 2017年10月****a.輸出**

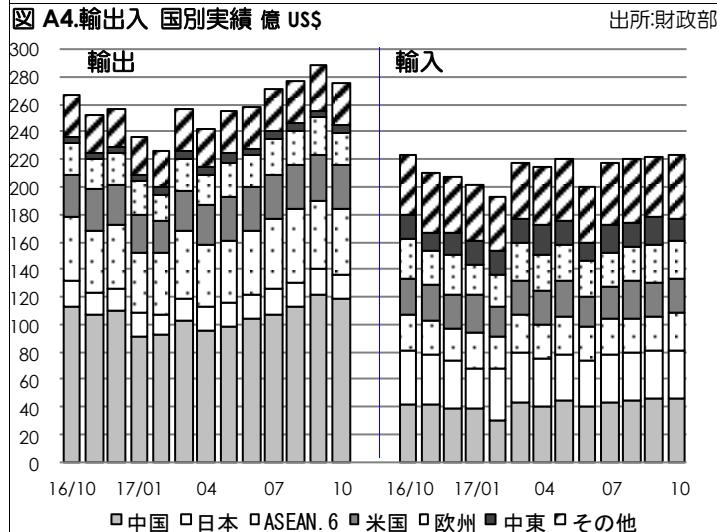
- ①中国向けの電機機械の堅調、金属やゴム・プラスチック等の増加
- ②アセアン向けの電機機械の好調、化学品やゴム・プラスチックの増加
- ③欧州向けの鉱物品の好調、電機機械の増加等から、前年同月比では13か月連続のプラス成長となった。

**b.輸入**

- ①中国からの電機機械や金属の好調
- ②韓国からの電機機械の増加や化学品の増加等から、前年同月比では13か月連続のプラス成長となった。

**c.収支**

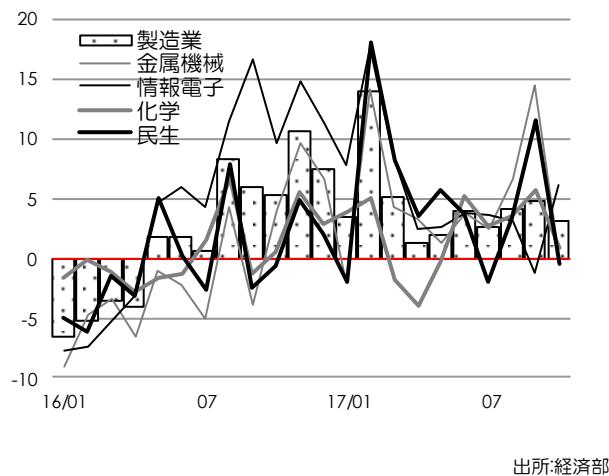
前年比ベースでは、黒字額は対中、対アセアン、対米が増加した。赤字額は対日本、対欧州が減少した。

**5.鉱工業生産 2017年10月****a.鉱工業生産全般**

モバイル端末の新製品投入（iPhoneX効果）、機械設備の需要増が全体を押し上げ、前年同月比では6カ月連続でプラス成長となった。今後の展望について、欧米のクリスマス商戦、中国の旧正月前商戦等から、当局は11月の成長を樂観している。

**b.製造業 4大産業別**

- ①金属機械 域内製鉄所のメンテナンスによる稼動停止があったが、機械設備の需要増が数値を下支えたため、微増となった。
- ②電子情報 半導体や液晶の旺盛な需要が続いたため、再びプラスに転じた。
- ③化学 石油化学原料の需要回復や汎用樹脂の買いムードが続いた。
- ④民生 飲料、食品、既製服等の減産でマイナスに転じた。

**図 A5.製造業 4大産業別伸び率推移 単位% 前年比ベース****6.小売業売上高 2017年10月****a.小売業全般**

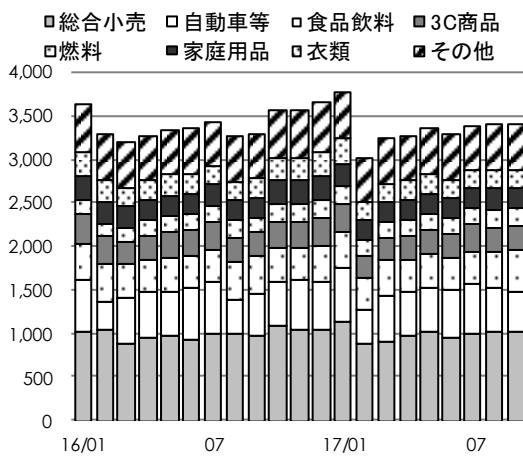
総合小売業が全体を押し上げたほか、食品や既製服の売上高が増加したため、前年同月比でプラスで推移した。

**b.総合小売業**

- ①百貨店 国慶日連休や創業祭の開催等が売上高に寄与した。
- ②スーパー 出店拡大に加え、中秋節商戦で堅調な伸びで推移した。
- ③コンビニ 出店拡大やコーヒー等の販売好調でプラスで推移した。
- ④量販店 オリジナル商品の販売促進等が売上高の上昇を促した。

**c.外食業**

中秋節や国慶日連休で外食需要が増えたため、前年同月比でプラスで推移した。

**図 A6.小売業売上高 業界別 億 NT\$** 出所:経済部

## 2017年Q3の経済成長率+3.10%、輸出が堅調

出所：行政院主計総処

- 台湾行政院が11月24日に発表した実質GDP成長率によると、2017年Q3のGDP成長率は前年同期比+3.10%と、8月時点の予測値同+1.89%から上方修正した。10四半期ぶりの高水準となった。
  - 外需について、世界経済の回復基調を背景に半導体関連や液晶パネルの輸出増、金属や機械の需要増等を受け、製品輸出が好調を維持した。
  - 内需について、自動車の需要増、外食業の売上高の増加、株式取引手数料支出の増加等が個人消費を支えた。一方、半導体設備の投資が緩慢だった影響で、固定資本形成の伸びはマイナスに転じた。
- 2017年通年の実質GDP成長率について、IT分野や素材等幅広い品目で輸出が伸びたため、台湾当局は前年比+2.58%の成長を見込んでいる（8月時点予測値+2.11%）。
- 台湾当局はまた、2018年実質GDP成長率は同+2.29%で緩やかな回復基調を維持できる見込み。ただ、中国の産業構造転換、IT市場での競争激化、前瞻基礎建設計画の進捗状況等不確定要素を注視する必要があるとの見方を維持した。

[台湾のGDP成長率と各項目の寄与度]

